

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	毎年6月		
基準日	定時株主総会の議決権	3月31日	
	期末配当	3月31日	
	中間配当	9月30日	
上場金融商品取引所	東京証券取引所	市場第一部	
	大阪証券取引所	市場第一部	
証券コード	8692		
単元株式数	100株		
公告方法	電子公告により行います。 http://www.daiko-sb.co.jp/koukoku/index01.html ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。		
株主名簿管理人/ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		
上記お問合せ先/ 郵便物送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料) 受付時間 9:00~17:00 (土・日・祝日、12月31日~1月3日を除く)		

### 〈株式に関する各種お手続き〉

- 届出住所などの変更、配当金の振込先の指定、単元未満株式の買取請求および買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取扱いきませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にて承りますのでお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 株式会社 だいこう証券ビジネス

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町13番1号  
電話 (03)3666-2231 (代表)

<http://www.daiko-sb.co.jp>

## 株式の状況

(2011年9月30日現在)

### 株式の状況

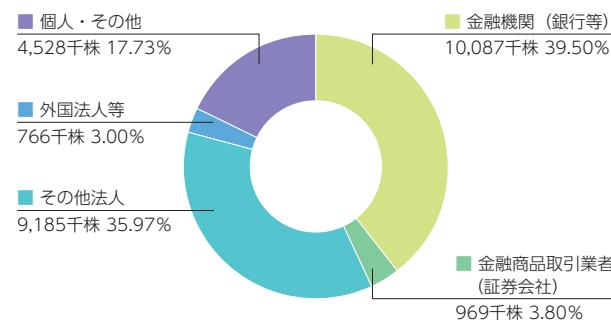
発行可能株式総数	66,240,000株
発行済株式総数	25,537,600株
株主数	4,532名

### 大株主の状況

会社名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
野村ホールディングス株式会社	5,133	20.16
大阪証券金融株式会社	4,985	19.58
株式会社野村総合研究所	2,535	9.95
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	702	2.75
株式会社りそな銀行	699	2.74
株式会社三井住友銀行	699	2.74
株式会社三菱東京UFJ銀行	690	2.71
株式会社池田泉州銀行	572	2.24
株式会社みずほコーポレート銀行	565	2.21
藍澤証券株式会社	489	1.92

※持株比率は自己株式（79,767株）を控除して計算しております。

### 所有者別分布状況



※金融商品取引業者の持株会社については、今回より所有者区分を「証券会社」から「その他法人」に変更しております。



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォントを  
採用しています。



# 第56期 中間報告書

2011年4月1日~2011年9月30日

Daiko Clearing Services Corporation  
BUSINESS REPORT



## 中期経営計画(2011-2013)の 初年度として、 持続的成長に向けた収益基盤の 強化に邁進してまいります。

代表取締役社長

山本 晃

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご支援ならびにご愛顧を賜り、誠にありがたく厚く御礼申し上げます。また、このたびの東日本大震災により被災されました皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

ここに、第56期上半期(2011年4月1日から2011年9月30日まで)の業績等につきましてご報告申し上げます。

### 当上半期を振り返って

当上半期におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による経済活動の停滞から徐々に持ち直しの動きが

見られたものの、欧米の財政不安による急激な円高の進行や長引くデフレ問題等により、依然として先行き不透明な状態が続いているといえます。

このような状況の下、当社グループは本年4月からスタートした中期経営計画に基づき、2011年度に「黒字体質」への転換を図るため、サービスの高品質化・高付加価値化および業務体制の効率化に鋭意取り組んでまいりました。

当上半期の業績につきましては、新規事業として本

年7月に開始したITサービス事業の収益により、証券代行事業の会社分割に伴う減収を概ねカバーすることができましたが、長引く株式市況低迷下での業務量減少が響き、営業収益は前年同期比4.3%減の56億89百万円となりました。一方、営業費用および一般管理費につきましては、前年同期比5.0%減の57億94百万円となりました。

この結果、営業損失は1億5百万円(前年同期比48百万円改善)、経常損失は61百万円(前年同期比25百万円改善)となりました。また、金融商品取引責任準備金戻入1億61百万円の特別利益や構造改革に伴う事務所移転費用71百万円の特別損失の計上等により、四半期純損失は前年同期に比べ1億8百万円改善し1億10百万円となりました。なお、当期の中間配当につきましては、当社配当方針に則り1株につき7円50銭とさせていただきます。

### 中期経営計画を着実に実行し、 新たなビジネスの柱として、 ITサービス事業を開始

当社グループは、証券会社の設立からシステムサポート、業務運営に至るまで証券会社運営を包括的に支援するDream-S&Sプロジェクトを推進しております。

当プロジェクトにおいてITサービス分野の強化を図ることを目的に、本年7月より三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社をファースト・ユーザーとして、証券バックオフィスシステム(基幹系システム)の提供およびその業務サポートサービスからなるITサービス事業を開始させました。これにより、当社グループの証券バックオフィスサービスに新たな強みが変わり、より総合的なサービス展開が可能となりました。

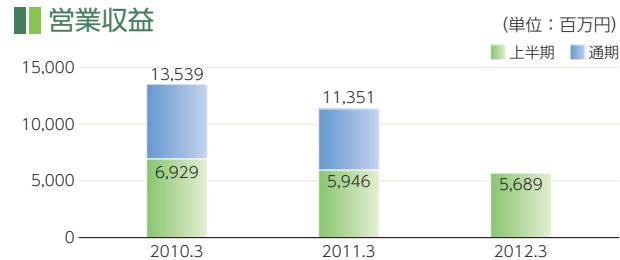
一方、当社グループのバックオフィス事業の構造改革の一環として、業務執行体制の効率化およびコスト削減を図る観点から、来年1月完了を目途に大規模な事業所の再編・集約なども着々と進めております。

下半期につきましても、サービスの高品質化・高付加価値化および業務体制の効率化を柱とした中期経営計画に全力で取り組み、より強靱な収益基盤の確立に努め「黒字体質」への転換を図り、2012年度における「持続的な成長軌道」への復帰を果たしていく所存です。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

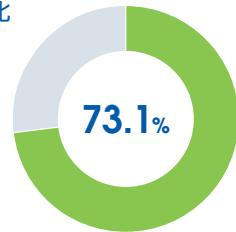
2011年12月

### ■ 連結財務ハイライト



## バックオフィス事業

■ 営業収益構成比



### 事業内容

証券会社等における口座開設、重要書類等の管理・配送、証券事務企画、監査支援、取引報告書等の作成・発送のほか、人材派遣、給与計算等を行っています。

### 営業概況

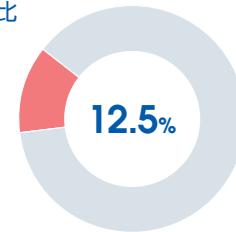
相続手続き事務代行サービスや電子文書管理サービス(D-FINDS)等の高付加価値サービスについて、積極的な営業展開により新規顧客の開拓が図られたものの、株式市況の低迷等により口座開設業務や配送業務等の業務量が減少したことから、営業収益は41億58百万円(前年同期比4.1%減)、セグメント損失(営業損失)は1億60百万円(前年同期はセグメント損失1億39百万円)となりました。

■ 営業収益 (単位: 百万円)



## ITサービス事業

■ 営業収益構成比



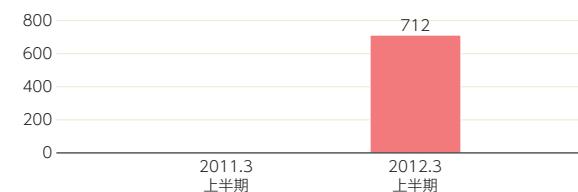
### 事業内容

証券バックオフィスシステム(基幹系システム)の提供およびその業務サポートを行っています。

### 営業概況

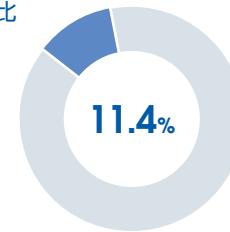
本年7月より証券バックオフィスシステム(基幹系システム)の提供およびその業務サポートサービスからなるITサービス事業を新たに開始したことに伴い、報告セグメント(ITサービス事業)を追加しております。ITサービス事業の営業収益は7億12百万円、セグメント利益(営業利益)は22百万円となりました。

■ 営業収益 (単位: 百万円)



## 証券事業

■ 営業収益構成比



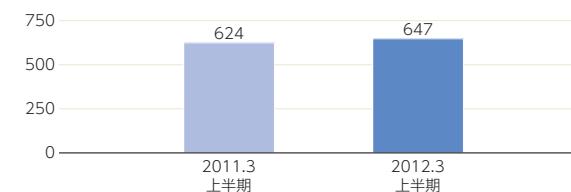
### 事業内容

有価証券の売買取次および清算取次のほか、信用取引に係る金銭等の貸付等を行っています。

### 営業概況

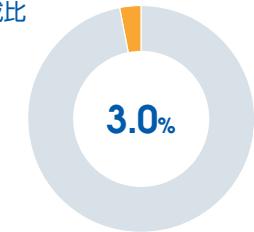
株式市況の低迷を受けて顧客証券会社からの株式等に係る注文の取次業務量が減少しましたが、株式等間接口座管理サービス(CLS)の大口顧客を獲得したことにより、営業収益は6億47百万円(前年同期比3.7%増)、セグメント利益(営業利益)は47百万円(前年同期比5.5%減)となりました。

■ 営業収益 (単位: 百万円)



## 金融事業

■ 営業収益構成比



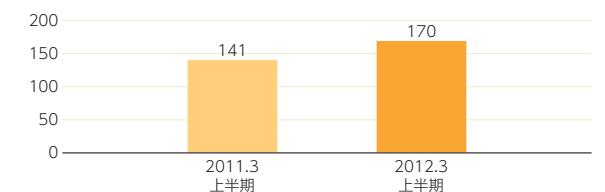
### 事業内容

有価証券を担保として金銭の貸付等を行っています。

### 営業概況

顧客証券会社との提携を強化するなど、積極的な営業展開を図ったものの、株式市況の低迷を受けて、営業収益は1億70百万円(前年同期比20.6%増)、セグメント損失(営業損失)は20百万円(前年同期はセグメント損失2百万円)となりました。

■ 営業収益 (単位: 百万円)



\*証券代行事業については、2011年1月1日をもって会社分割により三菱UFJ信託銀行株式会社および三菱UFJ代行ビジネス株式会社に承継いたしました。

ITサービス分野への挑戦

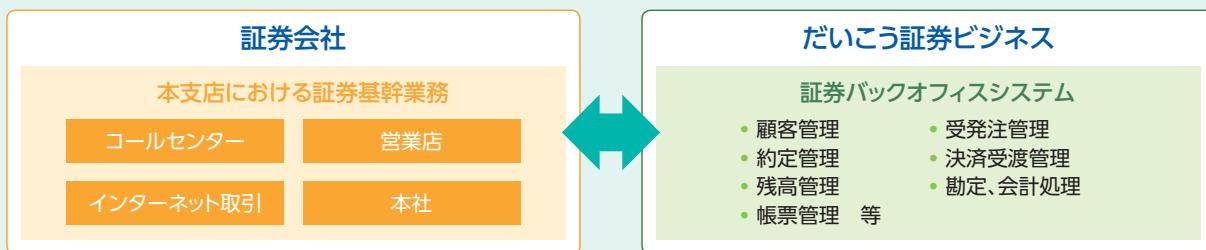
# 証券バックオフィスシステム(基幹系システム)の提供開始

■ 成長分野に経営資源を投入すべく、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社より  
基幹系システム資産を取得し、ITサービス事業を開始。

当社グループは、従来の証券バックオフィス業務の枠組みを超え、新たな価値観に基づくサービスを創出する「証券業務の総合的プラットフォーム」としての進化を目指し、証券会社の設立からシステムサポート、業務運営に至るまで証券会社の運営を包括的に支援するDream-S&Sプロジェクトを推進しております。

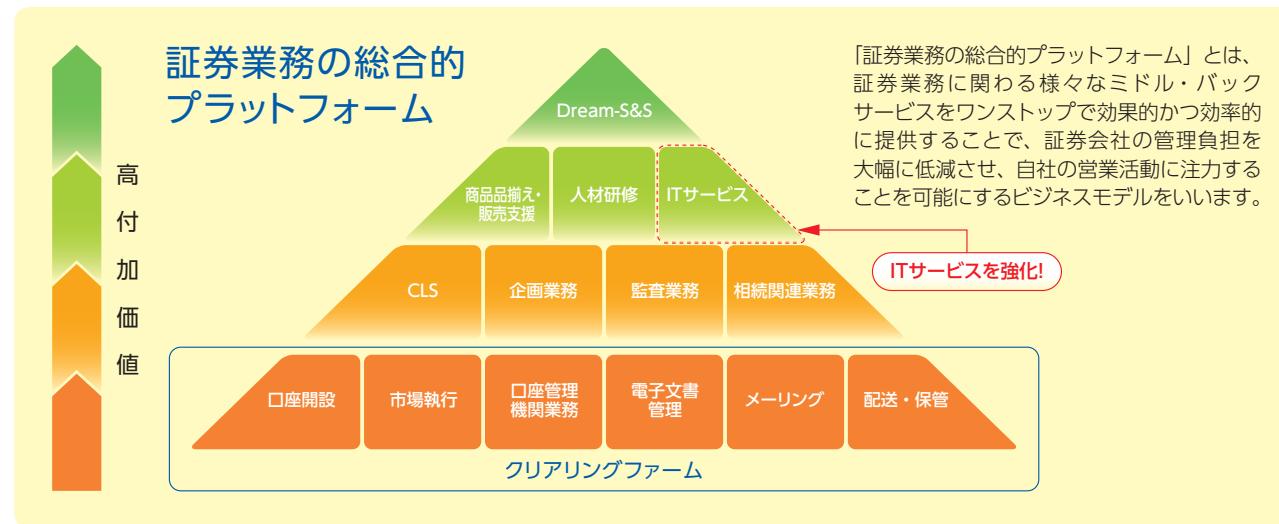
本年7月、Dream-S&Sプロジェクトの一環として、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社より基幹系システム資産を取得し、リテールビジネス向けの証券バックオフィスシステムの提供およびその業務サポートからなるITサービス事業（システムサポート）を開始いたしました。

## ITサービス事業のスキーム図



### 証券バックオフィスシステムとは？

証券業務において有価証券の取引で発生する約定、決済、証券残高、資金残高などを管理し、証券会社の基幹業務をカバーする仕組みをいいます。このシステムには、投資家の大切な資産を守るべく、その安定性、信頼性、堅牢性はもとより、急激な取引の増大にも耐え得る拡張性、新商品やサービスの展開にスピーディーに対応出来る柔軟性が求められます。



「証券業務の総合的プラットフォーム」とは、証券業務に関わる様々なミドル・バックサービスをワンストップで効果的かつ効率的に提供することで、証券会社の管理負担を大幅に低減させ、自社の営業活動に注力することを可能にするビジネスモデルをいいます。

## ■ 証券バックオフィスのシステムと業務との融合。

少ない初期投資でシステム導入が可能に。万全のサポート体制を構築。

ITサービス事業の開始により、証券会社が業務の安定した運用を実現する上で欠かすことができないシステムサポートと、従来当社グループが提供してきた口座開設などの証券バックオフィス業務を融合した、トータルサービスのご提供が出来るようになりました。

また、当社の証券バックオフィスシステムをお客様が

利用するシステムサービスという形でスキームを構築しており、お客様自身がシステムを自社開発する必要がないため、少ない初期投資でのシステム導入が可能となります。さらに、システム稼働後も信頼性の高いデータセンターにて万全な運用をサポートできる体制を構築しております。

## ■ 更なる業容拡大に向けて

当社グループは、長年にわたり培ってきた証券バックオフィス業務のノウハウを最大限に活かし、業務との親和性等を考慮したお客様に最適なシステムをご提案してまいります。

そして、常に新たな業務領域にも視野を広げていくこ

とで、証券会社をトータルでサポートできるサービスを展開してまいります。

引き続き、安定した高品質・高付加価値のサービスを第一とし、高い信頼を維持しつつ、更なる業容拡大に努めてまいります。

## 四半期連結財務諸表(要旨)

### ■ 四半期連結貸借対照表

科目	前期 (2011年3月31日)	当第2四半期 (2011年9月30日)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	32,066	28,082
現金及び預金	7,506	4,827
預託金	739	743
営業貸付金	9,702	11,990
信用取引資産	7,839	6,451
有価証券担保貸付金	2,789	-
営業未収入金	924	1,199
有価証券	212	162
短期差入保証金	2,387	2,423
その他	234	601
貸倒引当金	△ 270	△ 317
固定資産	4,737	11,895
有形固定資産	1,646	1,594
無形固定資産	484	7,986
ソフトウェア	158	7,926
その他	325	60
投資その他の資産	2,607	2,313
投資有価証券	1,921	1,777
その他	822	673
貸倒引当金	△ 136	△ 136
<b>① 資産合計</b>	<b>36,804</b>	<b>39,977</b>

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

(単位：百万円)

科目	前期 (2011年3月31日)	当第2四半期 (2011年9月30日)
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	10,328	14,071
短期借入金	1,220	5,692
信用取引負債	4,235	3,376
有価証券担保借入金	339	336
短期受入保証金	3,227	3,314
その他	1,306	1,352
固定負債	647	692
退職給付引当金	500	550
その他	147	142
特別法上の準備金	717	556
<b>② 負債合計</b>	<b>11,693</b>	<b>15,320</b>
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	24,418	24,107
資本金	8,903	8,903
資本剰余金	11,727	11,727
利益剰余金	3,841	3,529
自己株式	△ 53	△ 53
その他の包括利益累計額	△ 95	△ 195
その他有価証券評価差額金	△ 95	△ 192
為替換算調整勘定	-	△ 2
土地再評価差額金	△ 0	△ 0
新株予約権	58	39
少数株主持分	729	705
<b>③ 純資産合計</b>	<b>25,111</b>	<b>24,657</b>
負債純資産合計	36,804	39,977

### ■ 四半期連結損益計算書

科目	前第2四半期累計期間 (2010年4月1日～ 2010年9月30日)	当第2四半期累計期間 (2011年4月1日～ 2011年9月30日)
営業収益	5,946	5,689
営業費用	2,726	2,983
営業総利益	3,220	2,705
一般管理費	3,374	2,810
営業損失(△)	△ 153	△ 105
営業外収益	66	47
営業外費用	0	3
経常損失(△)	△ 87	△ 61
特別利益	31	191
特別損失	40	111
税金等調整前四半期純利益(△は損失)	△ 97	18
法人税、住民税及び事業税	74	83
法人税等調整額	12	8
少数株主損益調整前四半期総損失(△)	△ 183	△ 74
少数株主利益	35	36
四半期純損失(△)	△ 219	△ 110

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

(単位：百万円)

### ■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科目	前第2四半期累計期間 (2010年4月1日～ 2010年9月30日)	当第2四半期累計期間 (2011年4月1日～ 2011年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,384	985
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 95	△ 8,046
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 500	4,221
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 2,980	△ 2,836
現金及び現金同等物の期首残高	9,727	7,668
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	-	157
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,747	4,989

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

## POINT

### ① 資産の部について

流動資産において、営業貸付金が増加し、現金及び預金、有価証券担保貸付金が減少いたしました。また、固定資産において、証券バックオフィスシステム(基幹系システム)を取得したことによりソフトウェアが増加いたしました。

### ② 負債の部について

流動負債において、短期借入金が増加し、株式市況の低迷などにより信用取引負債が減少いたしました。

### ③ 純資産の部について

純資産において、剰余金の配当、四半期純損失の計上により利益剰余金が減少いたしました。

会社概要

社名 株式会社だいこう証券ビジネス  
 英文社名 Daiko Clearing Services Corporation  
 設立 1957年5月  
 資本金 89億3百万円  
 所在地 [本社]  
 〒103-0026  
 東京都中央区日本橋兜町13番1号  
 電話 (03) 3666-2231 (代表)  
 [大阪本部]  
 〒541-0041  
 大阪市中央区北浜二丁目4番6号  
 電話 (06) 6203-1751 (代表)

支社

新潟支社 金沢支社 岡山支社  
 ※2011年6月末に広島、9月末に名古屋および福岡の各支社を廃止しており、12月末に新潟支社を廃止する予定です。

役員

代表取締役社長 山本 晃  
 常務取締役 小林 博之  
 常務取締役 風神 浩三  
 取締役常務執行役員 成神 克雄  
 取締役常務執行役員 御園生 悦夫  
 取締役 船倉 浩史  
 監査役(常勤) 安田 新治  
 監査役 石川 孝憲  
 監査役 忠内 幹昌  
 監査役 田口 和夫

子会社

日本クリアリングサービス株式会社  
 株式会社ジャパン・ビジネス・サービス  
 代行科技(大連)有限公司

ホームページのご案内

当社ホームページでは、事業内容、株主・投資家の皆様への各種情報等最新の企業情報を紹介しております。ぜひご覧ください。

<http://www.daiko-sb.co.jp>



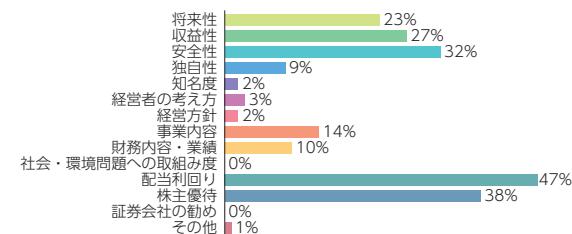
トップページ



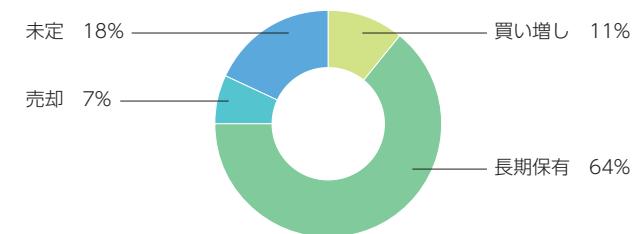
IR情報ページ

第55期年次報告書にて実施しましたアンケートに対し、149名の株主の皆様からご回答をいただきました。心より御礼申し上げます。ここではアンケート結果の一部をご報告いたします。

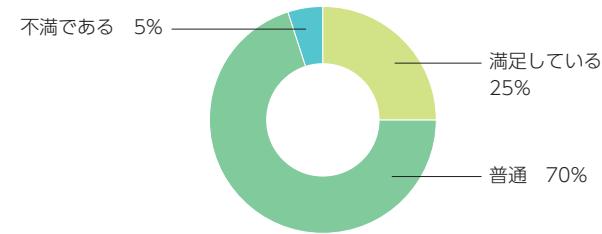
Q 当社の株式を購入された理由を教えてください。(複数回答可)



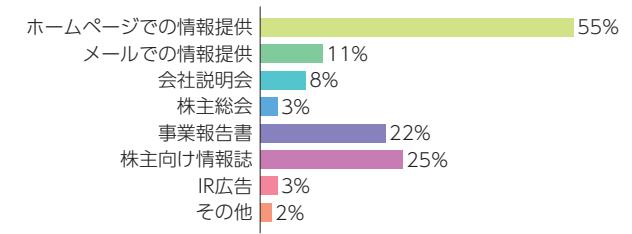
Q 当社の株式に対する保有方針を教えてください。



Q 当社のIR活動に満足していますか?



Q 当社のIR活動について、特に充実を希望することを教えてください。(複数回答可)



株主の皆様からのご意見・ご要望は、株主施策やIR活動の参考とさせていただきます。今後も皆様とのコミュニケーションの一環として、アンケートを行ってまいりますので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2012年3月期の中間配当について

2012年3月期の中間配当については、次のとおり決定いたしました。

- 普通株式1株につき 7円50銭
- 配当金総額 1億90百万円

なお、配当の効力発生日および支払開始日は、2011年12月9日となります。